



平成 22 年 4 月 30 日

各 位

会 社 名 株式会社 トライアイズ
代 表 者 代表取締役社長 池田 均
(コード 4840 大証ヘラクレス市場 G)
問 合 せ 先 取締役経営企画部長 赤根 克洋
電 話 0 3 (3 2 2 1) 0 2 1 1

(追加) 子会社の一部事業縮小に関するお知らせ

当社は、平成 22 年 4 月 15 日付にて「子会社の一部事業縮小に関するお知らせ」を公表致しましたが、当該事業縮小に関わる資産等の処分につき特別損失および特別利益を計上する見込みとなりましたのでお知らせいたします。

記

1. 特別損失の計上について

(1) 子会社の一部事業縮小について

東京ブラウス株式会社、株式会社松崎の 2 社は、これまで最も大きな販売チャネルとして、全国の百貨店に対しての卸販売を続けてまいりましたが、昨今の消費不況、百貨店不況の影響から、両社ともに、前会計年度は通期で営業損失、当会計年度第 1 四半期も四半期累計で営業損失を計上しております。そのため、両社において、経営コストの大幅な削減、販売チャネルの改善と一部の優良取引先を除いた全国百貨店との販売ネットワークの見直しは急務であると考え、当会計年度末を期限に、両社の不採算取引先となっている百貨店での販売を停止することを基本方針として決議いたしました。

かかる取引先からの撤退は、値引処分や返品、在庫商品の販路の減少など、一時的にグループ業績への相応のマイナス要因となりますが、内外の景気や百貨店業界の動向を考慮するに、既存路線の継続はそれ以上のマイナス影響を受けかねないと判断した次第です。

今後は、一部採算のとれている優良取引先を残しながら、将来的には B to B のビジネスモデルから B to C へのダイレクト・マーケティング・モデルへの転換を模索し、収益性の確保、ひいては当社グループ業績への貢献、当社グループ全体の企業価値向上に寄与できる事業構造を目指していく所存です。

(2) 特別損失および特別利益の内容

(連結)

東京ブラウス株式会社および株式会社松崎において、経営コストの大幅な削減、販売チャネルの改善と一部の優良取引先を除いた全国百貨店との販売ネットワークの見直しを行なうことに伴い、たな卸資産評価損 267 百万円、構造改革費用 576 百万円、合計 844

百万円の特別損失を計上するものです。

また、「負ののれん」につきましては、事業縮小を実施する結果、一括償却することが妥当と判断し、特別利益 455 百万円を計上するものです。

[特別損失]		[特別利益]	
たな卸資産評価損	267 百万円	負ののれん一括償却額	455 百万円
構造改革費用	576 百万円		
特別損失計	844 百万円	特別利益計	455 百万円

(個別)

事業縮小に関わる特別損失の計上によって、当該連結子会社 2 社は債務超過になることから、関係会社株式評価損 397 百万円と、債務超過相当額を当社の同社への貸付金に対して貸倒引当金 579 百万円、合計 976 百万円を計上するものです。

なお、個別決算において計上いたしますこれらの特別損失は、連結決算においては相殺消去されますので連結損益への影響はありません。

[特別損失]	
関係会社株式評価損	397 百万円
貸倒引当金繰入額	579 百万円
特別損失計	976 百万円

2. 今後の見通し

平成 22 年 12 月期の連結業績予想および個別業績予想につきましては、本日同時公表いたしました「業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照下さい。

以 上